

特定ケア看護師の挑戦

伊東市民病院での 特定ケア看護師としての活動



伊東市民病院 特定ケア看護師 大岩真弓

特定ケア看護師を目指した動機

私が勤務している伊東市民病院は、病床数250床で、24時間365日救急患者を受け入れ、地域の二次救急医療を担う中核病院として医療を提供しています。当院がある静岡県伊東市は、65歳以上の高齢者の人口比率が41.0%と全国平均(26.6%)と比べて著しく高い地域です。当院の入院患者さんの多くが75歳以上の高齢者で、老老介護であったり独居であることが多いため、退院調整が難しく、入院期間が長期化する傾向にあります。今後、地域住民が重度の要介護状態になっても、できるだけ長い間、または最期まで、住み慣れた場所で過ごすために地域包括ケアシステムのさらなる構築が必要となっています。

看護師は、患者さんとその家族が医師には遠 慮があって話せないこともなんでも相談できる 立場であり、医師と患者さんその家族との隙間 を埋めることができる役割があります. 入院中 はもちろん退院後も安心して生活ができるよう な医療の提供には、医療と看護のスムーズな橋 渡しができる特定ケア看護師の存在が必要であ ると考えていました. また、当院は医師不足状 態であり、医師が手術や外来業務に追われ病棟 の患者さんに変化があってもすぐに対応できない 状況です. なにか急変が起こる前に患者さん の変化にいち早く気付けることが必要であり、 そのためには、総合的なフィジカルアセスメン トができ. 自分で考え自分の判断に責任が持て る看護師になりたいと思い特定ケア看護師になることに挑戦しました.

JADECOM-NDC1期生として卒業してからは、当院の内科や外科で研修を行いました。自施設へ帰ってきましたが、看護師として働いていたときと違い、特定ケア看護師の立ち位置に戸惑いを感じ体調を壊すこともありました。乗り越えることができたのは、同期が同じ施設にいたことと看護部長をはじめ周りのサポートがあったからだと思っています。また、診療看護師が卒業前に勤務し、受け入れ態勢の準備をし、基盤を作ってもらえ、病院内の理解があったからだと思います。

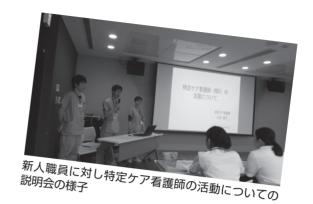
現在の仕事内容

私は昨年の10月から整形外科に所属しています。医師は3名で、入院患者さんは整形病棟と回復期病棟を合わせおよそ60人います。医師は、外来や救急対応や手術のため病棟を不在にすることが多くあります。朝8時から回診に備えて、事前に情報収集を行い、回診時に医師に報告し本日行うことを確認しています。入院患者さんのほとんどは75歳以上の高齢者のため、糖尿病や高血圧など内科疾患の管理が必要である患者さんが多く、問題がある場合は、他の診療科の医師にコンサルトを行い方針を確認しています。また、入院後に食事摂取できなかったり、発熱したりする患者に対してアセスメントを行い、原因検索を行い処置。対応を考え行動をし

ています。また、退院先の調整を行うことが多く、患者さんの家族や担当看護師、ソーシャルワーカー、リハビリ担当と栄養士と毎日のように連絡を取っています。病棟看護師との関わりとしては、私が朝出勤すると夜間の問題点や医師には言いにくいけど「ちょっとした何か変」を報告してくれます。医師より身近な言いやすい存在になっていると感じています。報告の内容を確認し、自分の目で患者さんを看て何が起きているのかアセスメントし、経過観察でよいのか、検査をするか、医師に報告するのかを判断しています。こうすることでより急変を防ぐことができていると思っています。医療安全の面からも医療事故につながる事例がなくなっていると報告がありました。

これからの課題

特定ケア看護師として働いてから2年半が経ちました。病院内では役割など周知されてきたと思います。今後の課題としては、特定ケア看護師になるために学んだ知識を共有できるように勉強会を定期的に開催していきたいと思っています。また、まだまだ知識として足りていないことがたくさんあります。救急外来などで医療面接、身体所見の取り方、臨床推論、診断能力をもっと身につけていきたいと思っています。また在宅医療の提供に関しては、現在は活



動できていませんが特定行為の実施によって, 在宅療養中の患者さんの苦痛を取り除き,より 快適な生活を継続することができるような訪問 看護に関われるようにしていきたいと考えてい ます. さらに当院には特定ケア看護師の後輩が まだいません. 今後は仲間作りにも力を入れて いきたいと思っています. 特定ケア看護師が地 域住民に受け入れていただけるように,何がで きる看護師なのかを示し,患者さん,その家族 がその人らしく人生を送れるように,地域との

私は看護師として「患者さん、患者家族の思いを優先し、その人らしい尊厳のある生活を支える」ことを大切にしたいと考えています。これからも看護の視点は忘れずに急性期の場でも在宅医療の場でも活躍できる特定ケア看護師を目指していきたいと思います。

連携を重視した看護を行っていきたいと思って

います.